

JIS

航空用語（機体構造）

JIS W 0108-1976

(2005 確認)

昭和 51 年 3 月 1 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

航空部会 航空用語(機体構造)専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	上山 忠夫	科学技術庁航空宇宙技術研究所
	竹内 和元	科学技術庁航空宇宙技術研究所
	古賀 達蔵	科学技術庁航空宇宙技術研究所
	小林 繁夫	東京大学工学部
	砂川 恵	東京大学宇宙航空研究所
	堺 司	通商産業省機械情報産業局
	逢坂 国一	工業技術院標準部
	藤嶋 敏夫	社団法人日本航空宇宙工業会
	島 文夫	日本航空機製造株式会社
	金田 安雄	富士重工業株式会社
	落合一夫	日本航空株式会社
(専門委員)	井田 孝	工業技術院標準部
(事務局)	矢島 武憲	工業技術院標準部機械規格課

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 51. 3. 1 確認：平成 6.3.1

官報公示：平成 6.3.4

原案作成協力者：社団法人 日本航空宇宙工業会、社団法人 日本航空宇宙学会

審議部会：日本工業標準調査会 航空部会（部会長 松浦四郎）

審議専門委員会：航空用語(機体構造)専門委員会（委員長 上山忠夫）

この規格についての意見 又は 質問は、工業技術院標準部機械規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

航空用語(機体構造)

W 0108-1976

(1994 確認)

Glossary of Terms for Aircraft
(Structure)

1. 適用範囲 この規格は、航空機の機体構造に用いる主な用語について規定する。
2. 分類 分類は、次のとおりとする。
- (1) 翼に関する用語
 - (2) 胴体に関する用語
 - (3) 発動機装着に関する用語
 - (4) 着陸装置に関する用語
 - (5) 構造の形式、要素、基準などに関する用語
3. 番号、用語、読み方及び意味 番号、用語、読み方 及び 意味は、次のとおりとする。
- なお、対応英語を参考として示す。

(1) 翼に関する用語

番号	用語	読み方	意味	対応英語(参考)
101	主翼	しゅよく	航空機の重量を支持するための揚力の大部分を発生する翼。	main wing
102	中央翼	ちゅうおうよく	分割構造になっている主翼の機体中心線を含む部分。	centre wing
103	外翼	がいよく	分割構造になっている主翼の外側の部分。	outer wing
104	尾翼	びよく	航空機のつり合い、安定及び操縦を受け持つために航空機の尾部に取り付けられた翼の総称。	tail unit, empennage
105	水平尾翼	すいへいびよく	縦のつり合い、安定及び操縦を受け持つ尾翼。	horizontal tail, tail plane
106	垂直尾翼	すいちよくびよく	方向の安定と操縦とを受け持つ尾翼。 備考 通常、機体の対称面に又は対称面に平行に取り付けられる。	vertical tail
107	T形尾翼	ていがたびよく	垂直尾翼の上端に水平尾翼が取り付けられた尾翼。	T-type tail
108	V形尾翼	ふいがたびよく	水平尾翼と垂直尾翼とを兼ねるV形の尾翼。	V-type tail
109	全可動尾翼	ぜんかどうびよく	安定板とだ(舵)面とが一体として作動し又は連動する尾翼。	flying tail, moving tail